

獲黃金獻之。練金一分、於是東人等賜勤臣姓。

〔伊呂波字類抄志氏滋野〕

國史云、元檜原東人天平勝寶元年爲駿河守、于時出黃金採而獻之、帝美其功曰、勤乎臣、遂取勤臣之義、賜姓伊蘇志、男家譯、延曆年中、賜姓滋野宿禰、同十四年正月、家譯賜朝臣尸、

〔續日本紀八元正〕養老五年六月戊寅詔曰、沙門法蓮心住禪枝行居法梁尤精醫術、濟治民苦、善哉若人、何不褒賞其僧三等以上親、賜宇佐君姓、

〔續日本紀十聖武〕神龜四年十二月丁丑勅曰、僧正義淵法師俗姓市往氏也禪枝早茂法梁惟隆、扇玄風於四方、照慧炬於三界、加以自先帝御世、迄于朕代、供奉內裏、無一咎愆、念斯若人、年德共隆、宜改市往氏賜岡連姓、傳其兄弟、

〔類聚名物考姓氏九〕罪人變姓名

案に古へより罪過有人は、或はその姓名を改めて、是を耻辱しむる事有、僧は俗姓名を付る事も律令の定めなり、是等の事、時により人にしたがふ事なり、一定の法にはあらず、

〔令義解僧尼〕凡僧尼有犯、准格律合徒年以上者還俗、許以告牒當徒一年。謂格者、臨時詔者、當時宜故人主權斷詔、者、勅量情處分是其格律者、元爲俗人設法、不爲僧尼立制、是以稱准也、徒年以上者、死罪以下也、告牒四年、以告牒當徒一年、其餘三年、依下文役身也、若流者、亦還俗而配流、不得以告牒當徒至配所不免居作也、

〔續日本紀二十三淳仁〕天平寶字五年三月己酉、茅原王坐以刀殺人、賜姓龍田真人、流多嶼島、

〔續日本紀三十三光仁〕寶龜三年二月癸酉、先是從五位上掃守王男小月王賜姓勝間田、流信濃國、至是復屬籍、

〔玉海〕治承四年五月十六日丁卯、隆職宿禰注送三條宮配流事、其狀如此、

源以光本御名以仁、忽賜姓改名云々、